

# ～学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業の取組事例～

## 「郷土に想いを寄せる同窓会運営委員会」－新聞づくり出前授業－

(国立大学法人福島大学うつくしまふくしま未来支援センター)

### 取組の基本理念

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故により長期の避難生活を強いられ、被災地のコミュニティは壊れてしまった。被災地では、震災からの復興・生活の再建・地域コミュニティの再生に向けた取り組みが進められている。被災地の子ども達が被災者と直接触れ合い、復興の現場を取材する体験を通じて、郷土への想いと地域の復興情報を「地域コミュニティふれあい新聞」として発行し、地域へ届ける。

### 事業概要

- 福島県内の被災地(特に、双葉地方)の子ども達による「地域コミュニティふれあい新聞」づくりを実施する。
- 地元の新聞社と連携して事業全般を企画・運営する。
- 参加対象者は、小学校5年生から中学校3年生までとし、定員30名で実施する。
- 土曜日の2回で実施する。
- 取材先リストからグループごとに取材先を決定する。
- 子ども達が仮設住宅や復興商店街等に出向いて取材する。
- 新聞作成ソフトを使用して、紙面の構成と記事を作成する。
- 新聞社の記者スタッフの指導を受けて取材し、新聞記事を作る。
- 作成した新聞は、自治体の協力を得て、県内・県外の避難者へ送付する。

### 取組の概要

#### 実施プログラム

- 【第1日目】
- 10:00 開校式
  - 10:15～ 新聞づくり講義  
取材グループ分け
  - 12:00～ 昼食
  - 13:00～ 取材活動
  - 14:00～ 新聞記事の作成
  - 15:00 終了
- 【第2日目】
- 10:00～ 新聞記事、写真、見出し等の作成
  - 12:00～ 昼食
  - 13:00～ 記事・写真の校正、  
新聞名称決定
  - 14:30～ 新聞印刷、まとめ
  - 15:00 閉校式



#### 実施の効果

参加した子ども達は、地元の復興に向けた取り組みの現状を直接取材して知ることができた。

・復興に取り組んでいる地元の人たちや仮設住宅で避難生活を送っている人達との交流ができた。実施自治体から他県に避難している皆さんへ「ふるさと情報」を発信できた。

・事業に参加した子ども達は、仲間としての「絆」が深まった。

・訪問取材先では、地元の子供達と触れ合うことができたと言われた。また、地域の明日を担う若者の育成としての効果もあった。

・新聞社の記者による指導を受けて、情報の発信力が向上し、学級新聞等の作成に活用できるなど、教育的な効果が期待できる。

